

道徳的価値の理解を基に、自己の（人間としての）生き方について考えを深める授業づくり

授業づくりのポイント

※ は小学校、()は中学校 数字は指導と評価の例と対応

- | | |
|--|--|
| <p>① ねらいとする道徳的価値や児童生徒の実態等から、児童生徒に何について考えさせたいのかを教師が明らかにして授業を構想する。</p> <p>② 「価値理解」「人間理解」「他者理解」を促す発問等を取り入れることにより、児童生徒が道徳的価値を理解できるようにする。</p> <p>③ 登場人物の言動を自分に置き換えて考えさせたり、身近な出来事などを想起させたりして、児童生徒が自分との関わりで考えることができるようにする。</p> <p>④ 児童生徒の実態に応じて、板書や発問、アンケートの活用や資料の提示等を工夫し、他者と</p> | <p>対話したり協働したりして様々な考えに触れる機会を設定することにより、多面的・多角的に考えることができるようにする。</p> <p>⑤ 自分自身を振り返ったり、目標を見付けたりする時間や場面を設定することにより、児童生徒が、<u>自己の</u>（人間としての）生き方について考えを深めることができるようにする。</p> <p>⑥ 児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているかという点を重視して学習状況を見取り、評価につなげる。</p> |
|--|--|

話し合い活動における学習状況の見取りを生かした指導と評価の例

小学校第4学年 主題名「相手を思いやり、親切に」[親切、思いやり B- (6)]

◇教材名 「心と心のあく手」 (「わたしたちの道徳」 文部科学省)

◇本時のねらい 相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする態度を育てる。

◇児童の実態 親切な行為の大切さを理解しているが、多くが「他者へ何かを施すこと」と一面的に捉えている。相手のことを考えて、進んで親切な行為をしようとするには至っていない。

<あらすじ> ある日僕は、苦しそうに荷物を持って歩くおばあさんに、荷物を持つことを申し出るが断られた。後で、歩く練習をしているというおばあさんの事情を知る。数日後、再びおばあさんを見掛けた僕は、声を掛けずにおばあさんが家に着くのを見届けた。

多様な考えに触れ、物事を多面的・多角的に考える場面

- T : 再びおばあさんを見掛けたとき、皆さんが「ぼく」だったら、声を掛けますか。掛けませんか。
- S1 : 僕は、声を掛けます。心配して声を掛けることは親切なことだし、困っている人がいたら助けるのが当たり前と思うからです。
- T : 考えだけでなく、そう考えた理由も話してくださいね。
- S2 : 私は、声を掛けません。一度断られているので、声を掛ける勇気が出ないからです。
- S3 : 私も声を掛けません。おばあさんは歩く練習をしていると分かったので声は掛けない方がいいと思うからです。
- T : 「声を掛ける」又は「迷っている」と考えている人たちはどうですか。
- S4 : 私は、声を掛けようと思っていただけですが、S2さんの勇気が出ないという気持ちも分かるので、声を掛けるかどうか迷っています。



意見を交流する場面では、自分の立場や考えを明確にした上で話すように促します。また、判断の根拠やそのときの心情に着目しながら問い返し、多様な考えを引き出します。その際、1人1台端末を活用するなどし、児童の考えを視覚化したり、共有したりすることが有効です。 ④⑥

道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深める場面

- T : 声を掛けなかった「ぼく」を、皆さんはどう思いますか。「声を掛ける」と考えていた人たちはどうですか。
- S1 : 声を掛けなかったけれど、おばあさんが家に帰るまで、心の中で見守っていたのだと思います。だから「ぼく」は親切だと思いました。
- T : 声を掛けた方が親切なのか、掛けない方が親切なのか、私は分からなくなってきました。皆さんはどう思いますか。
- S3 : 私もS1さんと似ていて、声を掛けなかったけれど心の中でおばあさんを応援していたと思います。これも親切なのではないかと考えました。
- S4 : 私も、「ぼく」は親切だと思います。
- T : S4さんがアンケートに書いていた経験を交えて、詳しく話してください。
- S4 : はい。前に、妹に宿題を教えようとしたのですが、自分でやるからと断られました。妹の気持ちを考えないで手伝おうとして反省しました。相手のことを考えて黙って見守ることも親切にすることだと思います。
- S5 : 私は、みんなの話聞いて、親切というのは、何かをしてあげることだけではないと思いました。



事前に、アンケート結果や生活記録等から把握した児童の考えを踏まえ、意図的に指名することで、児童が自分と関わらせながら考えられるようにします。また、教師が疑問や迷いを投げ掛けることで、道徳的価値について深く考えることができるようになります。 ③⑥

【評価の視点】

- ・主人公の気持ちや行為について考えることを通して、他を思いやり親切にすることについて多面的・多角的に考えている。
- ・相手のことを考えた親切な行為を進んで行うことについて、自分との関わりで考えている。

評価する場面や視点を明確にし、児童の発言や記述等から変容を見取り、評価につなげます。発言の少ない児童や記述が苦手な児童については、友達の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしていたりする姿に着目して評価します。 ⑥